

今の鴨川について学ぼう

鴨川の上流は、豊かな森林に覆われています。鴨川の水質は、山間部ではBOD^{*1}の年平均値が0.5mg/l以下(平成16年)と低く、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオも生息しています。また、まちなかでも概ね0.5mg/l～0.7mg/lときれいな水質になっています。

北大路橋より上流の水辺にはツルヨシ群落があり、また、下流部の桂川合流点付近ではヨシ群落があり、アユ、オイカワ、カワムツ、カワヨシノボリなどの魚類や、カワセミ、ユリカモメ、カルガモ、イカルチドリなどの鳥類の生息も多く確認されています。しかし、一方では鳥の餌付けによる人への被害や、外来生物による生態系への影響も心配されています。

このように鴨川は、わたしたちや、そこに生息する多くの動植物たちにとって、貴重な自然の恵みを与えてくれています。これからも、自然の恵みに感謝しながら、人も魚も鳥も草もみんなが気持ちよく、安心して利用できるように鴨川の環境を守り育てていくことが大切です。

鴨川のユリカモメ

鴨川では、毎年10月から11月になると、多くの鳥たちをみることができます。特にユリカモメの群は、多いときには1日に約8,000羽のユリカモメが鴨川で確認されたときもありました。渡り鳥であるユリカモメは、昼間には餌を求めて鴨川に飛来し、夜にはねぐらになっている琵琶湖に戻ります。



提供:日本野鳥の会 京都支部



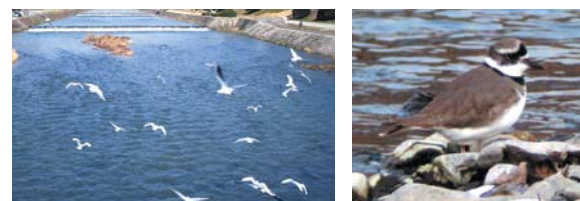
オオサンショウウオ

ヨシ群落



オイカワ

カワセミ



ユリカモメ

イカルチドリ

鴨川で確認された主な生物たち	
植物	セイタカヨシ・ツルヨシ・セイヨウカラシナ・ヤナギタデ・ミソソバ・セイケアワダチソウ・オオカナダモ 等
魚類	アユ・オイカワ・カワヨシノボリ・カワムツ・ニゴイ・ズナガニゴイ・ヌマチチブ 等
鳥類	カイツブリ・ユリカモメ・ヨシガモ・マガモ・ヒドリガモ・カルガモ・カワセミ・イカルチドリ・ハクセキレイ 等
爬虫類・両生類等	オオサンショウウオ・アマガエル・シマヘビ・クサガメ・ミシシッピアカミミガメ・アブラコウモリ 等

平成16年度調査結果(京都府)

2 近年、鴨川では大きな洪水は起きていませんが・・・

鴨川は、平安京の昔から暴れ川として恐れられており、たびたびはん濫して京都のまちは水害に見舞われてきました。

近年では昭和10年(1935年)の大洪水で大きな被害を出しましたが、これをきっかけとした改修工事などにより、洪水はん濫が起きにくくなっています。

しかし、最近では、地球温暖化などが原因と考えられる大きな水害が全国各地で発生しています。平成16年(2004年)には新潟、福島や福井県で大雨が降り、多くの家が流されたり、水に浸かるなどの被害が発生しています。また、京都府の北部においても台風23号により大きな被害が発生しました。



平成16年台風23号による鴨川の増水状況(三条付近) 提供:京都新聞



台風23号による由良川(ゆらがわ)のはん濫状況(福知山市大江町) 提供:国土交通省 福知山河川国道事務所



台風23号による大手川(おおてがわ)のはん濫状況(宮津市)



台風23号による浸水状況(宮津市)

鴨川においても平成16年8月には、東山の鹿ヶ谷において1時間に100mmを超える集中豪雨が発生し、急激に増水した鴨川の中に、あやうくたくさんの人が取り残されそうになりました。



平成16年8月の鴨川の増水状況(三条付近) 提供:京都新聞

*1 BOD・・・生物化学的酸素要求量。水の汚れの度合いをしめすもので、値が大きいほど汚れている。